

2023年度 大学生の力を活用した集落復興支援事業

# 福島県只見町塩沢・十島地区 実態調査報告書



日本工業大学 学生環境推進委員会

2024年 2月

## 目次

1. 団体の概要-----	p.3
2. 調査の目的-----	p.3
3. 集落概要-----	p.4
4. 活動スケジュール-----	p.5
5. 実態調査-----	p.6
6. 課題-----	p.15
7. 提案（実態調査から得られた活性化策の効果及び改善点）-----	p.16
8. 今後に向けて-----	p.17

謝辞

## 1. 団体の概要

日本工業大学（埼玉県宮代町）の学生環境推進委員会は、3 学部（基幹工学、先進工学、建築学部）の各学科（機械・情報・建築など 7 学科）を専攻する学生で構成されています。

当委員会では、環境関連と地域連携の活動を中心に行っており、SDGs の社会課題解決に向けた幅広い活動も行っている団体です。

環境関連活動では、エコプロ（東京ビッグサイトで行われる国内最大規模の環境展示会イベント）への参加、利根川強化堤防ボランティア活動（植樹、樹木の保全）、町内各種イベント、NSCWeek（全国学生清掃週間：全国の大学生と環境問題に取り組む活動）、リサイクルショップ、SDGs キャンプ in 日工大（SDGs の社会課題解決を目指すワークショップ）を行っています。

地域連携活動では、宮代町民まつり、自然の森サマーフェスタや子ども大学など、企画段階から参加しています。特に近隣の小学校 4～6 年生を対象に行う子ども大学では、工業大学ならではの科学実験を交えた体験授業を行うことで、評価を得ています。



リサイクルショップ



子ども大学

## 2. 調査の目的

### （1）背景

今回の対象となっている南会津郡只見町塩沢・十島地区は、人口減少・高齢化に伴う生活利便性の維持が危ぶまれています。その影響により農耕や行事存続が難しくなっています。一方、集落の住民の方々からは、若い世代との交流・意見交換を行い、集落の活性化や維持を図っていききたいとの要望があります。

### （2）目的

上記の背景を念頭におきながら、現地にある観光施設や山川草木の現況を調査し、観察を行うことで、地域の魅力や課題を深く知り、地元関係者との交流を行うことにより、住民の方々の悩みや想いを伺い、支援活動の方向性を見出すことが目的です。

### 3. 集落概要

#### 3-1 人口と面積

(1) 南会津郡只見町(2024年1月1日時点)

【人口】	3,676人
【男】	1,819人
【女】	1,857人
【世帯数】	1,563世帯
【面積】	747.6km <sup>2</sup>

【概要】只見町は四方を緑の山々に囲まれ、福島県の西南にあります。

清廉な川と、面積の94%を占める森林資源に恵まれ、豪雪地帯ならではの四季の美しい移り変わりが、只見町の魅力です。

【参考】只見町 「日本の自然の中心地 自然首都・只見」

<https://www.town.tadami.lg.jp/index2.html>

(2) 只見町 塩沢・十島地区(2020年10月1日時点)

【人口】	50人
【男】	28人
【女】	22人
【世帯数】	23世帯
【面積】	2,270,500m <sup>2</sup>

【概要】塩沢・十島地区は、只見町の最北にあります。

ブナと川のミュージアムや河井継之助記念館等の観光スポットを構えており、豊かな自然、広大な農耕地が散見されます。一方、高齢化により労働者不足の問題が見受けられます。

【参考】国勢調査 令和2年国勢調査 小地域集計

<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00200521&tstat=000001136464&cycle=0&tclass1=000001136472&tclass2=000001159880&tclass3val=0>

#### 3-2 農業

ワラビやお米を生産しており、一部農業機械を導入していますが、金銭的な問題で導入が完全ではありません。

集落内の農業生産を継続するため、若い労働者や後継者不足の改善が早急に求められています。

### 3-3 就業

低賃金・労働環境の整備不足により労働者不足が発生しています。

労働者不足の対策として、2024年度から開始予定のワーキングホリデーや、U・Iターン支援情報、若者定住支援事業補助金等があります。

### 3-4 行事

野焼きやワラビの採取体験などの行事が豊富にあります。一方で、行事を実行するための労働者が不足していることや、新型コロナウイルスの流行により規模が縮小傾向にあります。

## 4. 活動スケジュール

今回の支援授業で実施した年間活動スケジュールを下表に示します。

活動時期	現地/Web	内容
2023年 7/13	対面	会議第1回目(キャンパス内で会議) ①現地の方とリモート打合せの日程 ②実態調査日程 ③実態調査の参加人員把握期限 ④実態調査の概要確認
7/31	対面	会議第2回目(キャンパス内で会議) ①リモート会議に向けた質問内容案決定 ②実態調査の当日スケジュール決定
8/4	Web	会議第3回目(リモートにて) 実態調査に向けた質問内容・視点決定
8/9	Web	只見町の現地の方とのリモートにて交流会
9/11	現地	只見町での実態調査(1日目) ①ブナと川のミュージアム見学 ②十島ビューポイント見学 ③塩沢駅見学 ④簡易郵便局見学 ⑤塩竈神社見学 ⑥塩沢集会所住民の方々と意見交換
9/12	現地	只見町での実態調査(2日目) 十島地区農業用ため池の見学 河井継之助のお墓見学

		河井継之助記念館見学と山塩資料館見学 塩沢集会所住民の方々と意見交換
9/25	Web	会議第4回目(学生でのリモート会議) 現地訪問を踏まえた意見・反省等発表
10/12		提案等を第1回目報告書として只見交流推進課に提出
11/6	Web	活動スケジュールシート提出締め切り
11/7	対面	学生内で実態調査アンケートを踏まえた話し合い 役割などを決める(提出フォーマット作成、成果物イメージ作成)
11/10		大学生事業アンケート提出
11月上旬～ 12月中旬		10月12日に提出した第1回目報告書をワークショップによりブラッシュアップ
11月末まで		各自フォーマットに感想・提案を提出
12月上旬		提出物まとめ
12/20頃		只見町の方とリモートにて会議
1月～1月末		2月の報告会に向けた資料作成
2月		報告会準備
2/17		ホテル福島グリーンパレスでの福島復興事業報告会
2/29		最終成果品(報告書)の提出締め切り

## 5. 実態調査

5-1 現地訪問による実態調査日程と内容を示します。

1日目(9月11日)

時刻	行程	備考
8:00	埼玉県発	移動、昼食
13:30	只見町着、顔合わせ	集落の方への町の紹介、自己紹介
13:40	ブナと川のミュージアム見学	只見町・只見ユネスコエコパークの概要を知る、研究拠点兼博物館見学
14:40	塩沢地区の集落散策	塩沢地区の地域資源の確認及び地域の状況の把握
17:00	集落との意見交換会	地元の方との意見交換会を行い現状と課題を知る
18:30	宿到着	地域課題の把握
19:00	夕食・地元の方との交流会	地元の方との交流を図る



2日目(9月12日)

時刻	行程	備考
9:00	宿出発	
9:10	十島ビューポイント 集落の説明	見晴らしの良い場所から集落の全体像の確認
9:30	十島地区の集落散策	十島地区の地域資源の確認及び地域の状況の把握
10:00	河井継之助記念館と山塩資料館	集落の歴史と文化にふれる
11:30	昼食	只見町周辺で食事
13:00	集落との意見交換会	塩沢・十島の両地区を確認の上で集落の方との意見交換、今後の相談
15:00	解散、只見町発	

## 5-2 只見町十島地区の訪問地調査概要および感想

### (1) 訪問地：山塩資料館

山塩資料館は河井継之助記念館から外に出て2Fに上がったところにあります。

これは820年ごろに当時の只見町を訪れた弘法大師が塩を得るのに難儀していた村人を哀れに思い塩泉を掘り当てたと伝えられたとされています。

村人は塩源を掘り当てたあと、そこに塩焼き小屋を作り農閑期に自家用の塩を作り、売り歩いたのが始まりとされていて、その製塩の様子が模型として展示されています。

また、製塩は滝発電所により塩井は水底に没して歴史から幕を閉じました。



山塩資料館

### ・参加者の感想

今回、山塩資料館に行き只見町の製塩の歴史について知ることができました。また、この資料館には、製塩が行われていた当時のことを追体験できるような精巧な模型やきめ細かく描かれていた資料などが展示されています。これらにより、まるでその時代にいたかのような体験をすることができ、只見町が今の形になるまでの歴史を後世につぐための重

要な建造物であるのだと実感しました。

しかし、今は製塩の工場やその場所は水力発電所の建築により水没しており、今はもう見られないものとなっており非常に残念で、一度は当時の状況を見てみたいと思いました。



山塩資料館見学の様子



製塩時代の塩沢地区

## (2) 訪問地：塩沢簡易郵便局



簡易郵便局外観



2階の出入り口

会津塩沢駅から徒歩3分の場所にある簡易郵便局で、郵便・貯金・保険の3つのサービスを行っています。その他にも暮らしを支える郵便局サービスがあり、郵便局見守りサービスという郵便局の職員が、主に一人暮らしの高齢者の方々と対面で会話をを行い、離れて暮らす家族に情報を共有させるというサービスが行われています。

外観の特徴としては2階建ての建物であり、豪雪地域に合わせた屋根の作りや雪で1階部分が埋もれてしまった時のために、2階に外に出るための扉が設けられています。

### ・参加者の感想

塩沢簡易郵便局は職員の方の人柄や温かい雰囲気から、人との距離を近く感じることのできる郵便局であるという印象を受けました。また、コンクリートの床には施工時につい



た猫の足跡があり、職員の方がこの猫の足跡について可愛らしくて、わざと残したなどと郵便局が出来るまでや出来た後のエピソードをたくさん話してくれました。

この郵便局は、この地域の皆さんのコミュニティの場として、立ち寄りたくなる雰囲気を作り出している郵便局で、初めて来た私たちにもその雰囲気が伝わり、たいへん魅力を感じました。



郵便局受付



コンクリート床（猫の足跡）

### （3）訪問地：河井継之助記念館・お墓

幕末に起こった出来事と、その時代に活躍した河井継之助を紹介する資料館です。幕末の社会情勢やその中で活躍した人々、そして彼らの関係性を解説した資料が展示されています。この資料館には、歴史的価値の高い情報や展示物を多く保管しており、実際に当時使用されていた道具や武器、その複製も多く残されています。私たちが見学した際には、展示物について専門のガイドが丁寧に解説してくれました。

この資料館から、歩いて数分の少し離れた場所には、河井継之助のお墓があります。墓地の横には、河井継之助がこの地に葬られた経緯が記された案内板があり、当時の出来事をうかがい知ることが出来ます。



残された資料の数々

#### ・参加者の感想

河井継之助記念館は幕末の情報や展示物が多くあり、特に歴史に興味がある人達にとっては知識を得るための貴重な資料が豊富で、有意義な時間を過ごせると思いました。

都市部からは遠く、公共交通機関も少ないため、気軽に来ることが出来ない地域なので、交通インフラの問題を少しでも解決が出来れば、今よりも多くの人を呼び込めると思いました。

河井継之助のお墓が、少し見えづらい場所にあるので、駐車場からお墓まで辿り着きやすいように、導線への案内板設置や周辺環境の整備などが必要だと感じました。

お墓の近くにある 1 軒のカフェ以外には、景色を楽しむ場所が無いため、小規模でも良いので、娯楽施設など休憩ができる居心地が良いスペースがあれば、塩沢地区の良さをじっくり感じてもらえると思いました。



河井継之助のお墓

#### (4) 訪問地：会津塩沢駅

JR 只見線は、福島県の会津若松駅と新潟県の小出駅を結ぶ全長約 135km の路線です。2011 年 7 月に新潟・福島豪雨が発生し、只見線は鉄橋の流出や土砂崩れによる線路の崩壊など、甚大な被害を受け長い間運行できない状況が続いていましたが、2022 年 10 月 1 日に全線で復旧作業が完了し、無事運転が再開されました。現在は、会津若松行きと小出行きそれぞれわずか 3 本の運行となっています。

只見線の特徴として、沿線を通る只見川や雄大な山々が時期によって生まれ変わる絶景があり、各所のビュースポットに立ち寄ることで、訪れた観光客を癒してくれます。



会津塩沢駅



駅周辺



#### ・参加者の感想

会津塩沢駅周辺は田んぼが広がっており、なんだか寂しさを感じました。このままでは鉄道で観光してきた人たちは、ただ車窓を楽しむだけになってしまうだろうと考えました。そこで、この塩沢・十島地区の魅力や、地元の特産品を知ってもらうために、駅前に掲示板を設置し、お土産屋を開くなど工夫して宣伝効果を高め、少しでも観光客が立ち寄ってくれば良いなと思いました。



駅までの道

#### (5) 訪問地：空き家

小さな集落のため、一軒一軒の間隔がとても広く建てられています。一部の空き家は所有者が、定期的に手入れをしているので、敷地内がきれいに保たれていましたが、多くの空き家は手入れされていないため、空き家の周りは草が生い茂り、壁が剥がれている状況で、空き家によっては脚立や板材が敷地内にそのまま放置されていました。

雪がたくさん降る地域のため、屋根の上には電熱線を使った屋根融雪システムが用いられています。屋根は比較的きれいですが、壁や床は激しく痛み老朽化が進んでいるところが有ります。また、空き家によっては積雪対策として窓に冬囲いの木板が取り付けられたままになっていました。



空き家の外観



豪雪地帯特有の消火栓

#### ・参加者の感想

集落は自然に包まれた場所であり、交通網や生活の不便さを除けば、のどかで癒される心地よい場所だと感じました。特に雪の降らない所で生活する私たちには、高い位置に設

置された消火栓は「珍風景」に見えました。

空き家の状態はあまり良い状態とは言えず、建築物としてはどうにか建っているといえるほど傷んでいるものも在りました。このような建物を改修による修復を行うことで、家としての機能を復元し、ゲストハウスとして運営できたら良いなと感じました。

地元住民は、集落の人との繋がりや豊かな自然が残る現在の環境がとても気に入っていると感じました。その良さを外部の方に知ってもらうために、ゲストハウスの利用などで、今以上に地域の魅力に気付いてもらうチャンスを作れないかと思いました。

#### (6) 訪問地：十島ビューポイント

JR 只見線の会津塩沢駅から十島地区方面へ徒歩で 15 分ほどの場所にある十島ビューポイントは、塩沢・十島地区の山々や只見川を望むことができる絶景スポットで、東屋のような休憩所が置かれており、ゆっくりと景色を眺めることができます。

広大な土地を持つ、ワラビ園（コロナ禍の影響で現在は休業中）や只見町の方々が大切に行っている河井継之助記念館など観光名所も見えます。その中でも、只見川に掛かる鉄道橋は存在感があり、一日に何本か運行する電車とタイミングが合えば美しい写真が撮れる最高のビューポイントです。



住民の説明を聞く様子



ビューポイントの眺望

#### ・参加者の感想

自然が溢れており、少し景色を眺めているだけで癒され、疲れが取れた気分になる場所でした。一方、美しい景色のなかに整備しきれずに、仕方なく放置されている空き家なども目に入るのが残念でした。今後空き家も景色の一部として調和できるように整備され、ビュースポットの景観を維持出来たら良いなと思いました。

休憩所の周りは地域の方々の手で、きれいに整備されていました。一方、背の高い樹木などの手入れは行き届いていないように感じました。

塩沢地区の景色と鉄道橋の組み合わせは、とても美しいと思いました。只見川の川幅が広く、湖のように川面に山々が映し出され絶景でした。



絶景のポイント

#### (7) 訪問地：ブナと川のミュージアム

ブナと川のミュージアムでは、只見町に生息する動物や只見町の気候など自然について、たくさん触れることができます。ここには小さい虫から大きな動物、たくさんの種類の植物が展示されていて都会には居ないような動植物を見るには最適な場所です。

「ブナと川のミュージアム」という名前ですが、只見町の古い歴史を知ることができる整備された展示スペースもありました。

只見町の気候や地形などの特徴が分かる展示スペースでは、写真や地形図により、現在に至るまでの生い立ちが良く分かりました。



ミュージアムで見学

#### ・参加者の感想

只見町の長い歴史を一から知るために、只見町を訪れたら一度は行って見て欲しいような場所でした。

植物や動物などの自然を学べるほか、只見町の歴史についても知ることができ知見を深められる、とても良いミュージアムだと思いました。

本物の農工用の道具や地元で生存している実際の生物も生きているかのように、展示を工夫しておりリアル感とともに周辺環境を知ることが出来ました。

ミュージアムに来て見るだけでも、只見町の環境や歴史を十分に知ることができる施設なので、観光地としてもう少し推しても良いと思いました。



### 5-3 意見交換会

各所の見学後、塩沢集会所においてKJ法を用いた意見交換を、塩沢・十島地区の区長さんをはじめとした住民の方と一緒に行いました。

最初に、現地の魅力、困っていること、有ったらうれしいものなど、住民の方からお話を聞かせていただきました。学生は付箋に自分の意見を記入し、貼っていくことを行いました。また、出た意見をもとにどうすれば問題や課題について、学生が支援していけるかを話し合いました。ここで出された双方の意見のうち主なものを箇条書きで挙げます。

- ①多く出た意見としては、ワラビ園のワラビを特産品として、メルカリなどで販売、町の収入を増やすことやビューポイントを含めた地区の景色の良さをPRすることなどの意見が出ました。
- ②地元の方には当たり前すぎる土地の魅力に気づいていないことがあり、インターネットなどSNSに慣れていないことも重なり、観光のPRが少なくなるのではとの意見も出ました。
- ③SNSはお金をあまり掛けずに機能させることが出来るので、私たち学生が使い方について支援し、SNSを活用したPR活動で、観光客の増加に結び付くのではとの改善策案も出ました。
- ④住民の意見では、地区住民が自ら改善をするためには、若い人が少なく人出不足で課題が分かっているにもかかわらず進められないのが現状だと話されていました。



住民との意見交換



歓迎ムードの話し合い

### 5-4 実態調査を終えての気づき

あらためて現地での実態調査の結果から、参加学生の気づきや意見をまとめてみました。

#### (1) 自然環境について

- ・多くの自然に恵まれている。
- ・四季の景色の移り変わりを地元の方々は愛している。
- ・ビューポイントなどの手入れが行き届いて歩いていながら良い景色だと感じた。
- ・天気によって景色がとても変化する。(只見川の朝霧)
- ・生き物や山菜など自然が多い。

#### (2) 観光に係わる印象

- ・自然が好きな人々や只見町の歴史を知りたい人には、もってこいの観光スポット。
- ・ブナと川のミュージアムで自然を観察できる。
- ・町としてしっかりビュースポットを設けていて良いと思った。
- ・只見雪まつりで多くの人が集まっている。
- ・スノートレッキングや恵みの森など子供たちが遊べるスポットがある。
- ・塩沢駅前で手を振る条例は参加すると、なお楽しい。

### (3) 地元の暮らしに関わること

- ・只見線は一日当たり3本しかない。
- ・高校卒業後大学進学や就職などで町を離れていってしまう。
- ・道路を使用する大半の車はダンプカーが多い。
- ・大学生など若い世代も只見町に来ている。(観光や体験)
- ・空き家でも現在所有者がいるが、管理されていない。
- ・定期的にワラビ園の畑を焼いている。(焼畑)
- ・ユキコタクシー登録200円で乗り放題。
- ・緊急時の連絡は、緊急無線を利用している。(高齢者、障害者宅に配備し通常動作が途切れると自動で無線連絡する方式になっている)
- ・塩沢集会所がサロンとして利用されている。
- ・地元病院の看護師・社会福祉士の正規採用が少なく、定着率が低くなっている。
- ・移住者への受け入れ条件は特にないが、そもそも事例がまだ無い。
- ・買い物時はスーパーに連絡すると周遊バスが迎えに来る。
- ・冬囲いを外す人手が無くて、そのままにしている住宅が発生している。
- ・田んぼの除草作業も人手が少なく苦勞する。(若い人が居ない)

## 6. 課題

現地での実態調査が終わり、大学内においてワークショップを行いました。また、只見町の行政の方を交えてリモート会議を進めた結果、多くの課題があげられました。

- ・コロナの影響でワラビ園は4年以上営業をしていない。
- ・雪の除雪が大変。
- ・町の行政の取り組みは、地区によってバラツキが発生している。
- ・地区を振興させるための戦略が事前に地元住民に届かない時がある。
- ・ワラビ園の山焼きをしたいが、人手の問題や天候や雪によっても出来ない。
- ・人手不足を補う策として機械化やAI化が考えられるが、コスト的に無理がある。
- ・子育て世代に来てほしい。
- ・お祭りの外部委託も難しい。(日程が合わない)
- ・山菜は若い人は食べないので、ワラビ園は繁盛しない。(PRの仕方など)

- ・商店などへのアクセスが悪い。
- ・ゲストハウスなどで利用が増えると地域住民との問題になるかも。
- ・老人ホームに入りたくない人もいるし、訪問介護を求める人もいる。
- ・地元の仕事は、低収入になりがち。労働環境も良くない。
- ・ノウハウや方法を伝えたとしても、住民の視点で不明点が残る継続的に活動を行えない可能性がある。
- ・人手不足など手入れの行き届かない空き家があると景観を損なう恐れがある。

以上に挙げられた多くの課題から、以下の 3 つのキーワードに絞り込み、提案内容を検討することになりました。一つ目は、空き家の問題について、二つ目に観光の有効活用について、三つ目は、SNS の活用についてです。これらを次章 7 にまとめました。

## 7. 提案（実態調査から得られた活性化策の効果及び改善点）

### （1）空き家の活用

◆私たちと空き家の所有者、地元工務店が協力して、内装・外装工事を行い、宿泊施設として改装することで、ゲストハウスとして運用する提案です。宿泊者へのオプションとして、以下の検討も行います。

- ・空き家宿泊者へのオプションとして、農業・林業体験を設けます。
- ・学生割引や農業応援割引で、ビジター向け料金プランのコストパフォーマンスを向上させます。

### （2）地域を活かした観光戦略

◆住民の方々のお話から観光を盛り上げるヒントが沢山あり、観光名所における特別イベントの企画や山菜などの物販促進の提案を行います。

- ・河井継之助記念館と協力企画として、河井継之助ツアーを行います。
- ・ツアー内容の一例として、VR利用や着物の着用体験、刀に触れてみる等の体験型ツアーを検討します。
- ・旧塩製造所跡地の歴史を生かし、塩水井戸跡地周辺の観光化を計画します。

### （3）SNS などでの情報発信

◆地元の魅力を外部に発信・集客する手段として、SNS を上手く利用することが、効果的であると考え、（1）と（2）の提案内容を SNS 活用で、3つを繋ぎ好循環させることを提案します。

- ・現地の特産品であるワラビ等を加工し、メルカリ等の物販ツールで販売します。
- ・現地住民の意向を確認した上で、ネット環境や SNS の利用方法の講座を行い、住民自らが地域の魅力を継続的に発信出来るようにします。

## 8. 今後に向けて

### 提案の具体化に向けて

今回の提案を実行に移すには、只見町塩沢・十島地区の住民の方とのヒアリングが大切であるため、現地の再調査を兼ねた訪問をし、話し合いを重ねたうえで、具体化していきます。また、只見町の行事や農林業体験を通して、地域の人と交流を深め、より良い地域の活性化を模索していきます。

### 謝辞

今回、私たちの活動にあたり、終始ご協力を頂いた塩沢・十島地区区長の渡部公平様をはじめとする住民の皆様、只見町 交流推進課 副課長 酒井文高様に深謝いたします。

今回の調査・交流を通して得た知見を活かし、今後も事業を進めていく所存ですので、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

ありがとうございました。